

松平家史料展示室 企画展

『小 さ き も の』

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 平成28年7月13日(水)～9月11日(日)
休館日：8月22日(月)

「何も何もちいさきものは、みなうつくし」(何でも小さいものは、全て可愛らしい)・・・清少納言が『枕草子』で述べたように、小さいものを可愛らしいと愛でる気持ちは現代の私たちも同じでしょう。そして、小さいものに施された繊細で巧妙な技術には、感嘆せずにはられません。〈企画展〉「小 さ き も の」では、江戸時代から近代までの印籠や根付、帯留や置物など、繊細で緻密な手わざがほどこされた手の平サイズの美術工芸品をご紹介します。

身につける

さげもの
提げ物

「提げ物」とは、たばこ入れや印籠など、江戸時代に帯から提げて持ち運んだ物入れの総称です。帯から提げるために、たばこ入れや印籠には紐が通され、その紐の先には根付がつけられました。

たばこ入れはその名のとおり、刻み煙草と煙管をセットにして、持ち運べるようにしたものです。印籠はもともと薬を携帯するための容器で、いつ頃からあったのか不明ですが、江戸時代初期には既に形が定まっていたようです。そこには、伝統的な吉祥文様から動植物や道具、物語まで多様な題材が、蒔絵や金工、象牙など様々な素材や技法によってあらわされ、江戸時代中期を過ぎると実用品としてよりも、装身具として発達していきました。江戸時代の男性用アクセサリともいえるたばこ入れや印籠と根付からは、身につけ、側近くに置いて愛でた持ち主の教養やセンスをうかがうことができます。



松に鶴鹿図蒔絵印籠
福井市春嶽公記念文庫

めぬき おびどめ
目貫と帯留

泰平の時代である江戸時代、刀装には様々な趣向が凝らされました。その金具のうち三所物みつころものとよばれた小柄・筭こづか・目貫こぎは、江戸時代になるとそれぞれの機能や実用性だけでなく、装飾的な役割が大きくなり、多様な意匠と彫金技術が発達しました。目貫などは、江戸時代後期(19世紀後半)頃に登場した女性の装身具である帯留おびしめに流用されることもあったようです。帯留とは、結んだ帯を固定するために帯の上に結んだ紐(帯締)に付ける女性の装身具です。幕末から明治初期に芸者たちの間で流行し、やがて一般の女性たちにも広がっていきました。その背景には、明治9年(1876)の廃刀令により刀装具を製作していた金工たちが失職し、帯留を含む日常的な金工品等の製作に携わるようになったこと、洋装化による宝飾品への憧憬と和装への導入などが考えられています。



這龍図目貫 無銘 伝後藤宗乗 福井市春嶽公記念文庫



錦鯉図帯留 銘「光春」 福井市春嶽公記念文庫

おんたいせつのおんさいくもの 「御大切之御細工物」

「御大切之御細工物」は、福井藩16代藩主松平春嶽が越前松平家へ養子に入った天保9年（1838）11月23日の朝、江戸城大奥で前將軍家斉と將軍家慶に面会し、拝領した調度類のミニチュアや置物。恐らく、家斉の息女で福井藩14代藩主松平齊承夫人となった浅姫（享保3年～安政4年・1803～1857）の道具として詠えられたものが、11歳と幼かった春嶽に与えられたものと考えられます。付属品の「入日記」（台帳）には、細工物一つ一つを年に一度所在を確認した際に捺された印があり、「御大切」という名前のおおりに大切にされていたことがわかります。



御大切之御細工物 福井市春嶽公記念文庫



筆架 島雪齋作 福井市春嶽公記念文庫

しませっさい 島雪齋

島雪齋（文政2年～明治12年・1819～1879）は三国出身の彫刻師。三国の彫刻師志摩乗時（通称龍造）のもとで修行しました。春嶽愛用の身の回り品には雪齋作品も多く、その作品は春嶽や藩士たちに愛されました。また、鷹司家に仕えた同郷の儒者・三国幽眠の紹介により京都でも活動、公家らにも作品を納めています。春嶽から命を受けて制作した紫檀製の書棚が朝廷へ献上され、法橋の位に叙せられたといひます。また、寺院の装飾彫刻も手がけており、精緻な作品を残しました。

ボンボニエール

明治中期頃から、皇族や旧華族家の祝宴の際、記念品として小さな引出物が配られるようになりました。その多くは金平糖や干菓子などが入ったお菓子入れで、この菓子器をボンボニエールと呼んでいます。「ボンボニエール」という名前の由来は、ヨーロッパでは子供の誕生や結婚などお祝い事の際に、砂糖菓子＝ボンボンを配っており、その砂糖菓子をいれた容器をボンボニエール（Bonbonnière）と呼んだことによるようです。一方、日本では古来より饗宴の際、「引出物」や「引菓子」を配り、それを持ち帰るための箱を用意しました。ボンボニエールは、西洋の風習と日本の伝統文化をあわせもったものであることが指摘されています。

ボンボニエールは、時代により木製や陶磁製のものもありますが、その多くは銀で作られました。銀は比較的加工がしやすく、複雑な意匠を表現することができ、金銀を好んだ西洋からの賓客たちにも喜ばれたことでしょう。



でんでん太鼓形ボンボニエール 福井市春嶽公記念文庫

【関連イベント】

ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説）

日時 7月16日（土）、8月6日（土）、8月20日（土）、9月3日（土）

各回とも午後2時から30分程度

場所 郷土歴史博物館 松平家史料展示室

但し、観覧料が必要です。

【次回の展示】

松平家史料展示室

<企画展> 刀と刀装

9月14日（水）～11月23日（水）

松平家史料展示室 展示解説シート No.97
平成28年7月13日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489

担当 藤原 千穂

印刷 宮本印刷